



## 教科書から「はてな？」を生み出し追究させる！

社会科の授業で教科書を活用する際に、大切にしたいポイントがあります。それは、

教科書に書いてあることを「覚えさせる」のではなく、  
書いてあることから「はてな？」を生み出し追究させる。



ことです。

子どもたちが、社会的事象の意味や働きについて意欲的に追究するためには、意外性や矛盾等が生まれる社会的事象との出会いが必要です。そのためには、子どもの興味・関心を引く教材を開発したり、自作の資料等を用いて事象提示を工夫したりすることが考えられますが、教科書を活用することでも十分可能になります。

そこで、今回は、**教科書をうまく活用して、追究の原動力となる「はてな？」を生み出し追究させる実践例**を紹介します。

### 〈小学5年 「あたたかい土地のくらし」 – 沖縄島 –〉

教科書（『新しい社会5上』東京書籍）の小項目「沖縄県の家やくらしのくふう」の頁に、コンクリートづくりの家の写真が掲載されています。写真をよく見ると、ほとんどの家の屋根にタンクがあるのが分かります。そこで、次の「はてな？」について、子どもたちに追究させます。

「はてな？」その1

なぜ、それぞれの家の屋上にタンクがあるのか？



教科書で調べてみると、「屋上には、**水不足に備えて貯水タンクがある**」という記述があり、**沖縄は水不足にみまわれる**という事実をとらえることができます。

次に、教科書の「那覇と東京の気温と降水量」及び「1年間に通る台風の数」の二つのグラフ資料を読み取らせます。すると、**沖縄は、「東京よりも年降水量が多い」と「多くの台風がやってくる」ことが分かり、「降水量が多い」ことがとらえられます。**

そこで、次の二つ目の「はてな？」について、子どもたちに追究、推測させます。

「はてな？」その2

## 沖縄は、降水量が多いのになぜ水不足になるのか？

教科書で調べてみると、沖縄は、「**広い森林が少なく、川が短いため、昔から水不足になやまされてきた**」という記述を見つけることができます。

そして、地図帳で沖縄の土地の様子を調べさせ、教科書の記述について確かめさせます。地図帳で調べてみると、沖縄には、「**標高の高い山がない**」ことや「**短い川しかない**」ことが確認できます。

さらに、教師から、沖縄は、「**島が水を通しやすい石灰岩等の岩からできている**」という情報を知らせます。

教科書や地図帳で調べて得た情報と教師からの情報を組み合わせて考えると、沖縄では、「**せっかく降った雨水が地下に貯まることなく海に流れてしまっている**」ことが推測できます。

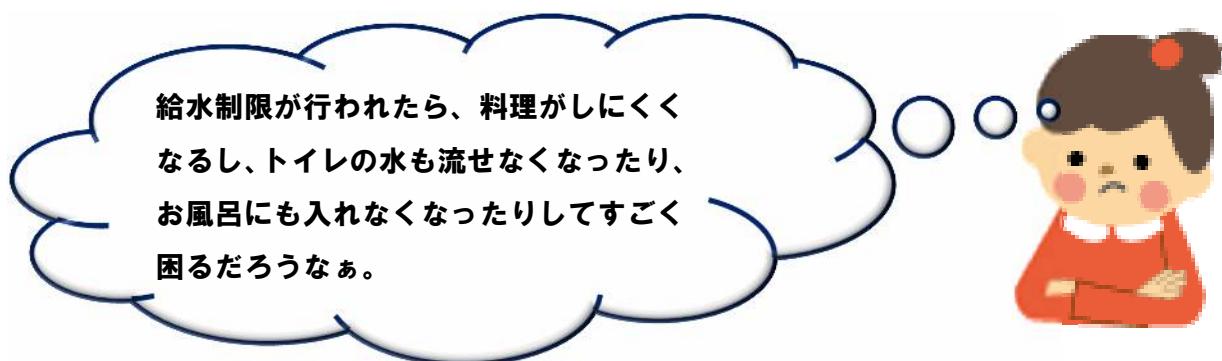
沖縄の水不足の原因が分かったところで、最後に次の「はてな？」について、子どもたちに推測させます。

「はてな？」その3

## 水不足になったら生活はどのような状況になるか？

この際に、水不足になると「**給水制限が行われ、水道から水が出ない時間があったり、出ても少ししか水が出ないことになったりする**」という情報は、教師から与えます。

この情報をもとに、水不足になると自分の生活がどうなるのかを推測させます。



「水不足になったら生活はどのような状況になるか」という推測は、水道水を使っている子どもの日常経験に基づいています。子どもたちの多くは、水不足を経験したことがないと思われますが、水不足の時にどのような事態が生じるかについて、日常経験をもとに考えさせることで、沖縄の家の屋上のタンクの意味を理解することにつながります。